

「教師の力量形成に関する研究—その 1」

—学部教育に期待されるもの—

A Study of Teachers' Ability Development - Part 1 : What is expected for undergraduate education

中 根 政 美
Masayoshi NAKANE

概要

学校現場では、定年を迎えた教員の大量退職が進行し、新採用教員の増加が続いている。中堅教員（ミドルリーダー）が極端に少ない中、経験豊かな教員の指導力（力量）をどう若手教員に継承していくかが課題となっている。本研究では、教育活動に日々取り組む教員に、教員としての指導力（力量）をどのように形成してきたかの意識調査を行い分析する。そして、今後採用される若い教員に、どのような資質と学びを期待するのかを考察し、教員養成を担う本学学部教育に期待されるものを提言する。

キーワード：大量退職、力量の継承、教員の意識調査、学部教育への期待

Abstract

In recent schools, a growing number of baby boom teachers reach the retirement age, while more and more new graduates are being employed as teachers. Because of the small number of mid-career teachers (middle leader), it is significant to consider how to pass down the knowledge and skills of experienced teachers to young teachers. This study carried out the survey with elementary school teachers on how their knowledge and skills have been formed. Then it discussed the results in terms of what is expected for teachers who will be employed in the future, as well as the teacher training in the education department of this university.

Keywords: increase of retirement, pass down of the knowledge and skills, survey on teachers' perception, expectation for undergraduate education

目次

1. 研究の目的と方法
 - 1.1 研究の目的
 - 1.2 研究の方法
 - 1.3 先行研究の成果と課題
 - 1.4 調査の概要
2. 調査の結果と分析
 - 2.1 調査結果の集計
 - 2.2 集計結果と分析
3. 結果の考察と課題
 - 3.1 結果の考察
 - 3.2 今後の研究課題

1. 研究の目的と方法

1.1 研究の目的

教員の大量退職時代が続き、学校教育現場では、新任教員の大量採用が進行している。教員の年齢構成は、50歳代後半の教員が多く、40歳代中堅教員が少なく、ここ数年で採用された30歳代前半から20歳代の教員が増加しているという状況が続いている。

中央教育審議会は、「団塊世代の教員が大量に退職する影響や、ミドルリーダーとなるべき年齢層の教員が相対的に少ないことなど、学校組織における年齢の不均衡化がみられる」としている（中央教育審議会初等中等教育分科会教員養成部会「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について（中間まとめ（案））」、2015,7,9）。事実、ここ数年、都道府県、政令市による状況の違いはあるが、首都圏、大都市圏の都道府県、政令市ともに、大量退職時代を迎え、新採用教員を多く採用する傾向が続いている。

このため、各学校現場では、経験豊かな教員の大量退職に伴って、どう、新採用教員、若手教員に教師としての指導力（力量）を伝え、円滑な学校運営を維持していくかが課題となっている。

本研究では、現職の教員（養護教諭、管理職含む）が、どのように、教師としての指導力（力量）を形成してきたか、今後の教育を担っていく若い教師や大学生に何を期待し願っているかを考察することによって、教員養成を担う本学学部教育の充実に資することを目的とする。研究の視点を、実際に児童生徒への指導を担っている現職教員の意識調査の考察から明らかにしようとするものである。

1.2 研究の方法

学校教育の現場で教育を担う教員は、年齢、性別、学歴、経験年数、担当した学年、校務分掌、受講した研修機会等によって多様である。個性や得意とする分野・校務分掌によっても、それぞれが、それぞれの力量を発揮しながら児童生徒の教育活動を推進している。そこでは、組織としての教育活動が推進され、学校や地域の特色を反映しながら、その校の教育活動が推進されている。

しかしながら、組織としての教育活動でありながらも、やはり、教師個々の持つ教師としての指導力（力量）が大きく作用している。特に、小学校では、学級担任の人間性と指導力（力量）が、児童への指導推進の上で大きな影響力を持ち、作用する。とりわけ、学習指導・教科指導と学級経営の指導力（力量）に大きく左右される。

その教師としての指導力（力量）が、大量退職時代の中で、中堅教員の少数化と急速な新採用教員の増加という状況の中で、引き継がれにくく、新採用教員を始めとした、若手教師の力量形成に貢献出来ていないという現実がある。

本研究では、その経験豊かな教員の指導力（力量）形成が、どのようにしてなされてきたのかを、現職教員に意識調査し、教員を目指す学生に対して、どのような学びが必要か期待や願いを把握するものである。

意識調査の対象を、指導力（力量）がある本学近隣市町の3小学校の教員（含む養護教諭、管理職）とした。理由は、3校が充実した教育活動を展開し、校内研修も充実して行われ、研究発表会等の実施を通して、広く地域や他の学校への発信を行っていること、音楽発表を始めとした学校諸行事への取り組みも充実し、高い評価を得ていること、などから、教員の指導力（力量）が、高い水準で維持されていると評価できるからである。

意識調査は、養護教諭、管理職、臨時的任用者も含めた全教員を対象に行い、幅広い年齢・経験年数の意識の分析を通して、現職教員であるからこそ持っている意識や期待を把握したいためである。

なお、教師の力量は、指導力（力量）と表記したが、同義である。

1.3 先行研究の成果と課題

国立教育政策研究所は、平成23年（2011年）3月に「教員の質の向上に関する調査研究報告書」を発行した。「校内研究等の実施状況調査」「都道府県指定都市教育委員会調査」「都道府県指定都市教育センター調査」「市町村教育委員会調査」「優秀教員の力量形成に関する調査」と全国規模での調査結果と分析は、教師の力量形成研究の上で大きな成果を提示した。中でも「優秀教員の力量形成に関する質問紙調査」「同インタビュー調査」は、採用後の研修機会のあり方について大きな示唆を与えるものであり、その後の中央教育審議会教員養成部会の「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について」の文部

科学大臣からの諮問に生かされる研究成果である。しかしながら、研修機会が限られる中で、日常の教育活動に取り組み、真摯に児童生徒に向き合っている一般教員の意識や力量形成に係る研究が補充されるべきと考える。

埼玉大学教育学部は、『「力量のある質の高い教員」を目指す養成・研修の在り方に関する調査研究』を報告書としてまとめている。埼玉県教育委員会、さいたま市教育委員会と協力し、採用試験受験者 142 名、採用された教員 87 名に 3 年間にわたる追跡調査を行い、初任者研修制度を含め、力量形成への有効性を調査分析している。初任者にとって、初任者研修以外に、「同僚とのコミュニケーション」「先輩教員の場面指導の見学」等が有効とし、初任者の力量形成に係る事項を示している。

安井克彦は、西尾市小中学校教員 4 役悉皆調査を行い「教師のライフコースと力量形成に関する研究 (その 1)」を行っている。教員を志願する経緯や採用後の力量形成の意識を、悉皆調査により分析し、教員としての指導力 (力量) があるが故に、各学校での要職を担っている 4 役が、どのような経過で教師になり、指導力 (力量) を形成してきたかを明らかにしている。ここでも、限られた力量ある教員 (4 役) への調査だけではなく、一般の教師の意識を対象とした調査研究を行うことが、より研究成果を補完できると考える。

また、和井田節子、石原陽子らは、「若い教師の育成に関する総合的研究 (その 1)」の中で、公立小中学校の初任者教員の育成における現状と課題を継続的に分析し、初任者研修のあり方について検討している。自治体による初任者研修制度と研修内容の相違の分析をとおして、採用後教員の指導力 (力量) 形成における初任者研修制度のあり方に関する研究は、今後とも重要な研究課題である。

この様に、教員の力量形成に関する研究は、さまざまな視点から行われ、研究成果が公表されている。本研究では、日々児童生徒に向き合い、指導に当たっている一般の教員を対象にし、一般の教員が、どのように指導力 (力量) を形成してきたと意識しているのか、教員を目指す学部生にどのような期待と願いを持っているのかを、質問紙を通して調査し、今後の教員養成学部教育に生かすことを目的とする。

1.4 調査の概要

1.4.1 調査時期と調査対象

- (1) 調査時期 平成 26 年 8 月。学校毎に校内研修時に配布し、学校毎に回収。
- (2) 調査対象 S 県内 2 市の市立小学校 3 校の現職教員 (養護教諭、管理職含む)

93 人

1.4.2 フェイスシート

フェイスシートは、性別、年齢、本採用年度、教職経験年数 (臨時的任用期間も合算)、最終学歴、受講した主な研修会、とした。教員の年齢構成に偏りが生じている現状を踏ま

え、年齢別の分析も加味しようと考え、「その2」で分析することとした。臨時的任用教員については、本採用として任用されていない場合でも、小学校の臨時的任用者の多くが学級担任を経験し、本採用者と同程度の教育指導を行い、力量を形成していると考えられる。受講研修会の分析も、教員の力量形成に係る意識に大きな影響を与えていると考え、分析の対象とした。なお、現職教員が教員を目指す学生への期待や願いは、自由記述とし、調査対象教員それぞれの想いを、丁寧に整理することとした。

1.4.3 回答者のプロフィール

I -1：性別

性別	人数(人)	比率(%)
男性	33	35.5
女性	60	64.5
合計	93	100.0

I -2：年齢

	人数(人)	比率(%)
30歳未満	20	21.5
30歳以上40歳未満	24	25.8
40歳以上50歳未満	14	15.1
50歳以上60歳未満	35	37.6
無回答	0	0.0
合計	93	100.0

I -3：最終学歴

	4年生 大学	短期 大学	大学院	その他	無回答
男性	30	1	1	1	3
女性	47	6	1	3	3
合計	77	7	2	4	6

I -4：教員経験年数

	人数	比率(%)
10年未満	31	33.3
10年以上20年未満	24	25.8
20歳以上30年未満	10	10.7
30年以上	26	28.0
無回答	2	2.2
合計	93	100.0

I -5：受講研修会

	初任者研修	年次研修	中期研修等	カウンセリング 研修等	その他
男性	26	24	11	15	3
女性	47	43	9	34	3
合計	73	67	20	49	6

【その他】海外研修2、生徒指導講座等2、社会教育主事研修1、免許更新講習1

1.4.4 教師になるまでの分析

教師になろうと決意した時期、教師を目指したきっかけ、教師になることを決意した理由、小中学校で影響を受けた出来事等は、その後の教師としての力量形成に、一定の影響を与えているものとする。特に、早い時期から教師を目指していれば、大学等での学ぶ姿勢や意欲にも好影響を与えているものとする。分析の対象とした。

1.4.5 力量形成に影響を与えたと考えられる事項の分析

教師としての力量形成に影響（効果）があったと思われる事項の分析は、本研究の主たる目的である。年齢、経験年数、男女、勤務した学校・地域等によって、大きな違いを見せるものと思われる。そのような中で、指導力（力量）形成に影響があったとする事項の

傾向を分析することは、今後の力量形成への示唆を与えるものとする。

1.4.6 教師として、心掛けていることの分析

常に指導力（力量）の向上を目指している現職教員が、どのようなことを重視して教育活動に取り組んでいるかの分析は、教師を目指す学部学生への教育にとって、示唆を与えるものである。

1.4.7 教員の力量として、何が重要なのかの分析

教員の力量形成にとって、どのような力量を重視し、向上させようとしているかの意識分析もまた、学部教育に示唆を与えるものである。男女、経験年数による差異を想定しながらも、一定の傾向が把握できるものとする。

2. 調査の結果と分析

2.1 調査結果の集計

調査結果の集計は、回答（選択等）が1つの質問では、度数をそのまま表示した。複数回答（選択等）では、1位選択は3ポイント、2位選択が2ポイント、3位選択が1ポイントとし、重点化した。選択肢が多岐に渡った質問もあるが、選択肢としては、概ね網羅できたと思われる。なお、各質問は度数（ポイント）を、比較しやすいよう「横棒グラフ」で表示した。

2.2 集計結果と分析

2.2.1 質問1 先生が、最終的に教師になろうと決められた時期は、いつ頃でしたか。

- ア 小学校時代 イ 中学校時代 ウ 高校時代 エ 大学への入学直後
- オ 大学時代（教育実習の前から） カ 大学時代（教育実習終了後）
- キ 大学時代（卒業の時） ク 教職に就いてから

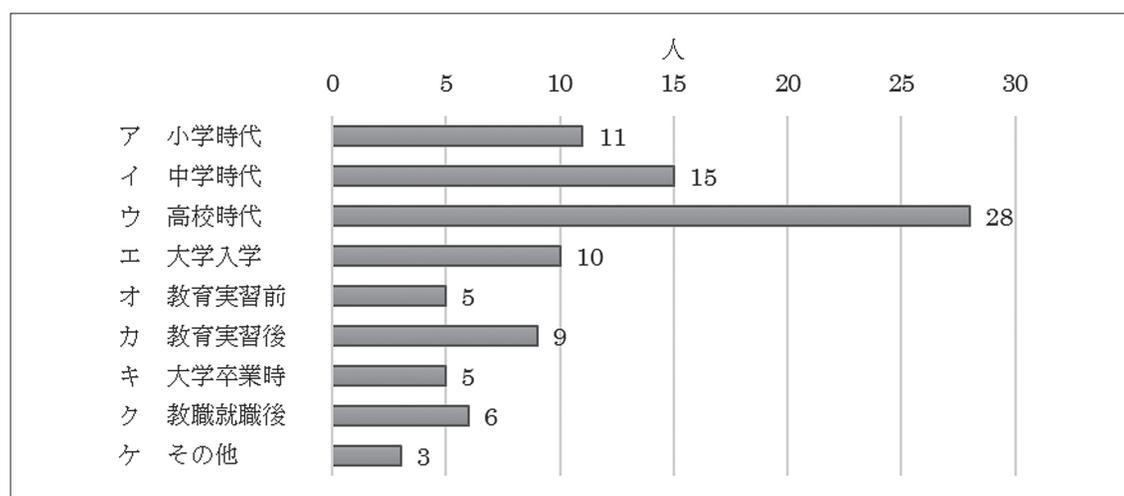


図 2.2.1 教師を決意した時期

- 1位：ウ「高校時代」(28人 30.1%)
- 2位：イ「中学校時代」(15人 16.1%)
- 3位：ア「小学校時代」(11人 11.8%)

どの時点で教職を目指したのかは、その後の教師になる為の努力の程度に係わってくるのではないかと推測される。回答では、高校時代が多く、中学校時代、小学校時代と続く。このことから、教師を目指した現職の教師は、ほぼ「将来は教師に」との目的を持って大学に進学したことが推測される。何となく、教員養成関係学部に入學したのではなく、ほぼ、将来は教師にという希望を持って大学等に進学したと言える。それだけに、大学等の教員養成機関には、学生の希望実現の為に、教師への道に繋がる様々なカリキュラムや体験制度が求められていると考える。

2.2.2 質問2 教職を目指したきっかけを、次のうちから2つ以内選んで、○をつけてください。

- ア 教師との出会い (小、中、高)
- イ 周囲の人 (特に) の勧め
- ウ 大学や学部の選択
- エ 教育系大学等への入学へのあこがれ
- オ 職の安定性、将来の経済的安定性
- カ 家業の継続を避けるため
- キ 家業を継ぐため
- ク その他 ()

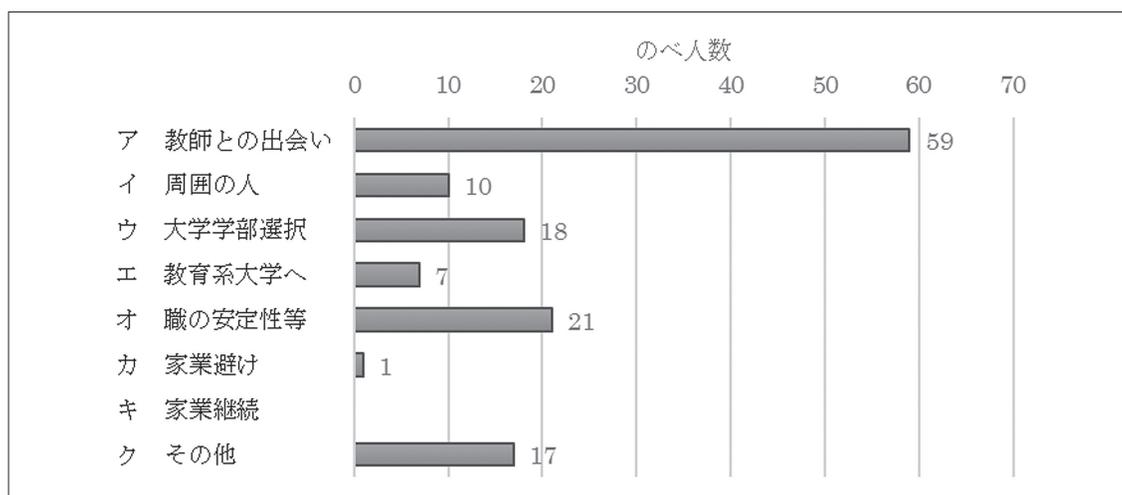


図 2.2.2 教師を目指したきっかけ

- 1位：ア「教師との出会い」59人 63.4% (小30人、中20人、高4人)
- 2位：オ「職の安定性、将来性」21人 22.6%
- 3位：ウ「大学や学部の選択」18人 19.3%

教師を目指すきっかけもまた、その後の教師になる為の努力に大きな影響を与えるものと思われる。また、教師になってからの努力や姿勢にも影響を与える要因であると考えられる。特に、「教師との出会い」は、その後の目指す教師像にも大きな影響を与えていると考

えられる。その中でも、小学校・中学校教師との出会いが大きかったことが読み取れる。現職の小学校教員のかんりの教師が「小学校時代の教師との出会い」を挙げていることは、目指す教師像を持って、教育活動に取り組んでいると言えるのではないだろうか。なお、第2位に「職の安定性、将来性」が選択されているが、多忙化が指摘される教師という職業であっても、選択される理由の一つになっていると考える。

2.2.3 質問3 先生が、教職を目指した理由を、次のうちから2つ以内選んで、○をつけてください。(複数選択)

- | | |
|--------------------|---------------|
| ア 仕事のやりがい | イ 教えることが好き |
| ウ 教師へのあこがれ | エ 経済的な安定 |
| オ 教師以外の仕事が考えられなかった | カ 家業の継続を避けるため |
| キ 家業を継ぐため | ク その他 () |

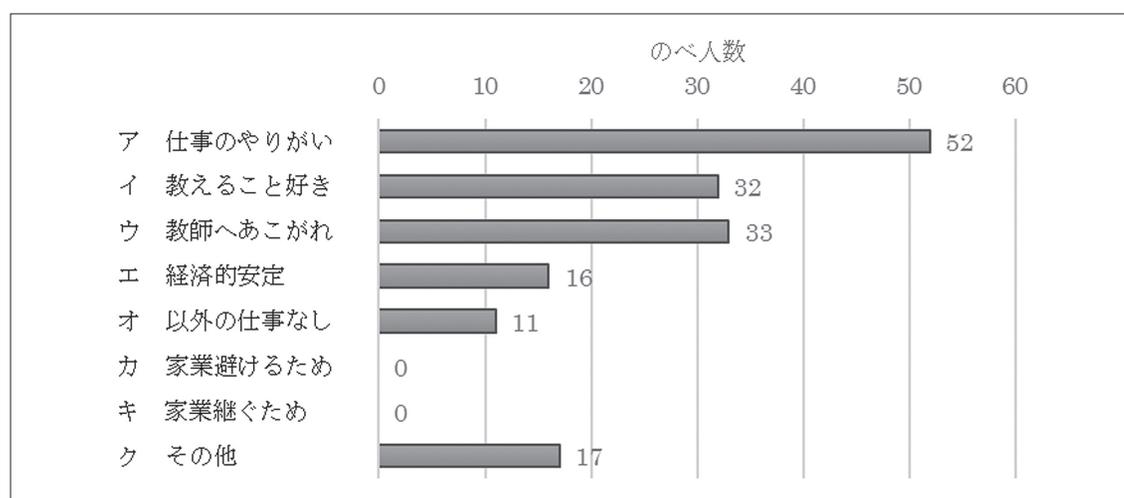


図 2.2.3 教師を目指した理由

- 1位：ア「仕事のやりがい」52人
- 2位：ウ「教師へのあこがれ」33人
- 3位：イ「教えることが好き」32人

「仕事のやりがい」「教師へのあこがれ」「教えることが好き」が上位であった。その後の教師としての成長を精神的にも支えることになっていったものと思われる。特に、「仕事のやりがい」は、教職という職業にとって重要な意識であると考えられる。

2.2.4 質問4 先生が経験された、小学・中学・高校・大学時代の経験で、教員としての自分に影響を与えていると思われる出来事をそれぞれ、1つ選び○をつけてください。

- | | | | | |
|-------|--------|-----------|----------|-----------|
| 小学校時代 | ア 授業 | イ 教師の人柄 | ウ 学校での経験 | エ 学校外での経験 |
| | オ 友人関係 | カ その他 () | | |

中学校時代 (ア 授業 イ 教師の人柄 ウ 学校での経験 エ 学校外での経験
 オ 友人関係 カ その他 ())
 高校時代 (ア 授業 イ 教師の人柄 ウ 学校での経験 エ 学校外での経験
 オ 友人関係 カ その他 ())
 大学時代 (ア 授業 イ 教師の人柄 ウ 大学での経験 エ 大学外での経験
 オ 友人関係 カ その他 ())

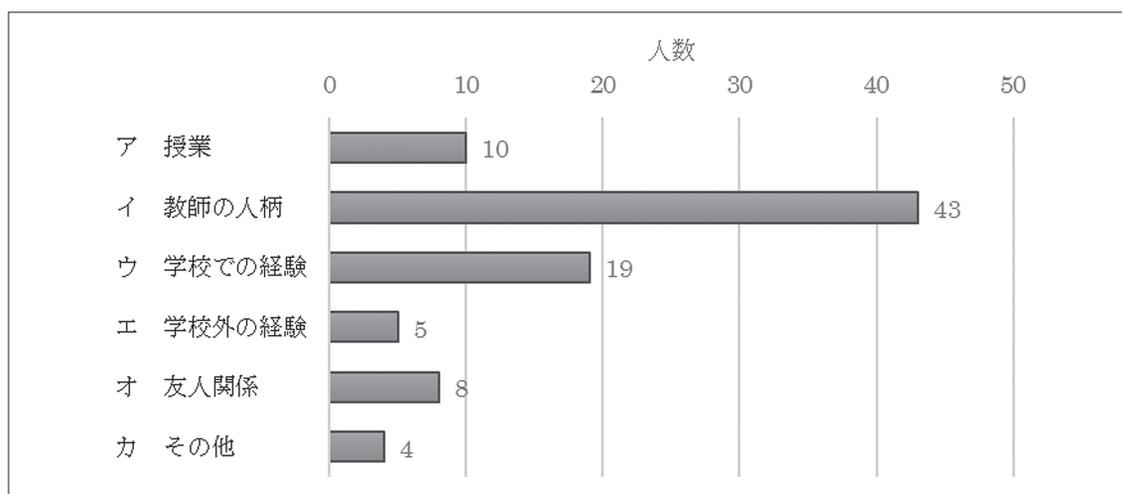


図 2.2.4.1 影響を受けた出来事 (小学校)

小学時代 (1位:イ 43人、2位:ウ 19人、3位:ア 10人)

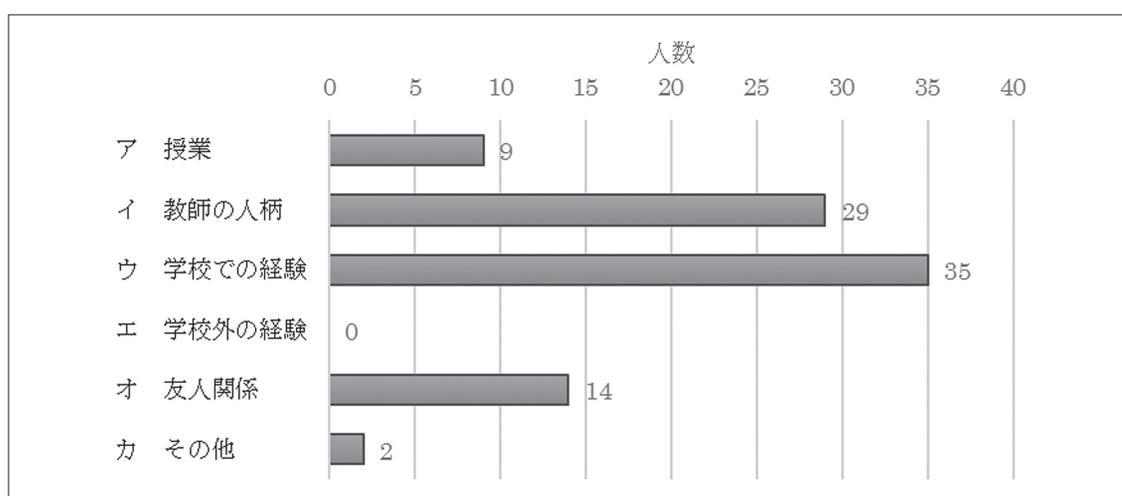


図 2.2.4.2 影響を受けた出来事 (中学校)

中学時代 (1位:ウ 35人、2位:イ 29人、3位:オ 14人)

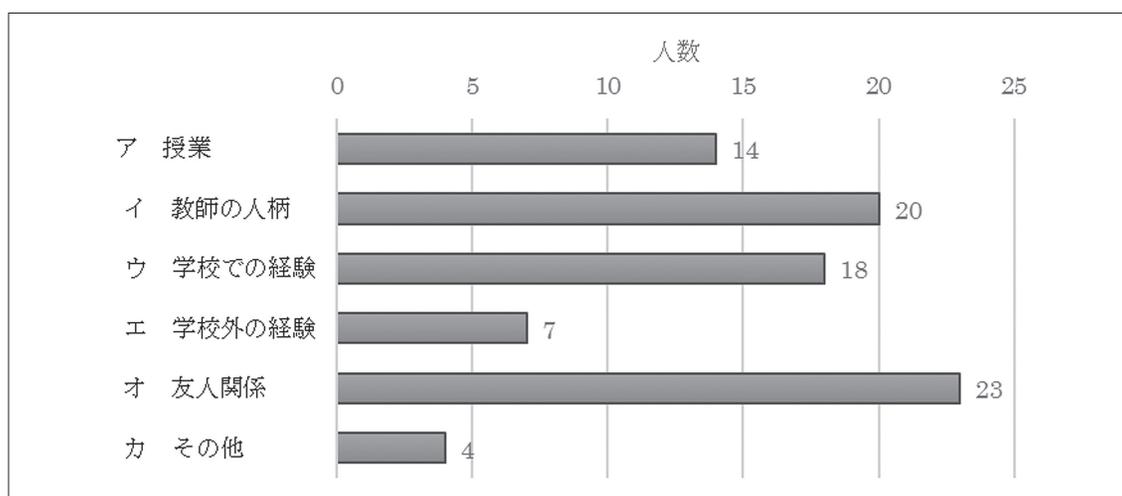


図 2.2.4.3 影響を受けた出来事 (高校)

高校時代 (1位:オ 23人、2位:イ 20人、3位:ウ 18人)

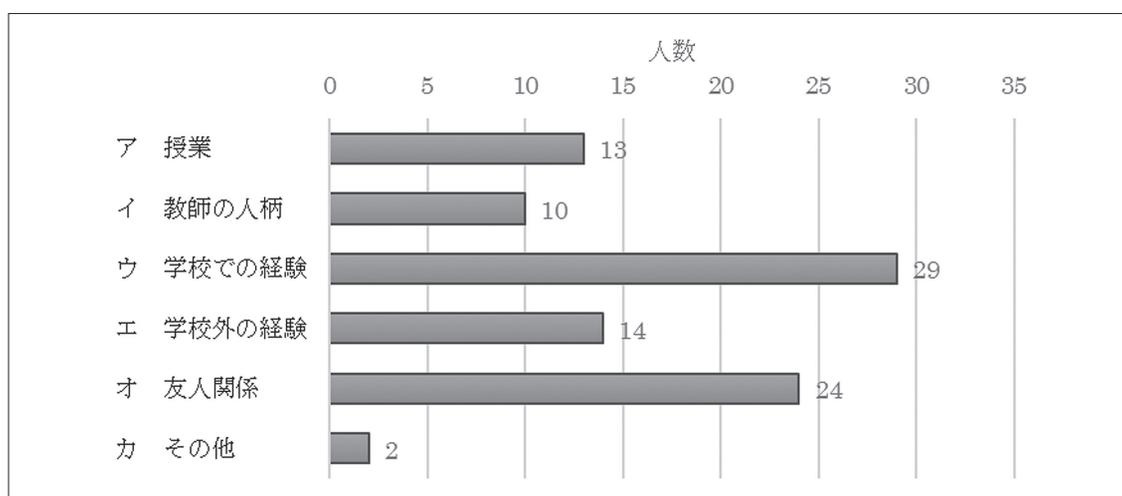


図 2.2.4.4 影響を受けた出来事 (大学)

大学時代 (1位:ウ 29人、2位:オ 24人、3位:ウ 14人)

小学校の現職教員であることから、小学校での経験が大きな影響を与えていると考える。小学校時代の最多は「教師の人柄」であり、以下「学校での経験」「授業」であった。最も影響を受けたものとしての「教師の人柄」は、自らが教師になった時に、大きな影響として反映されているものと思われる。また、学校での経験は、学校行事などが想定され、教師になってからの指導に、影響を与えていることが想像できる。

2.2.5 質問5 教員としての自分に影響を与えていると思われる大学での教職課程(教職・教科の科目、教育実習など)の出来事を、3つ以内で選び○をつけてください。

ア 教職科目の内容 イ 教科科目の内容 ウ 教職科目担当講師

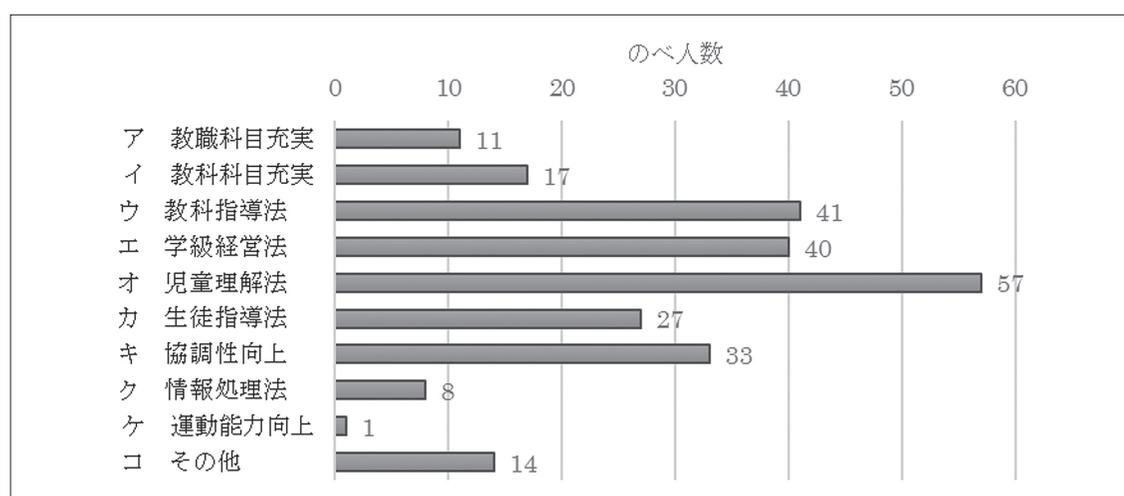


図 2.2.6 大学生に期待する学び

- 1位：オ「児童理解法の学びの充実」 57人
- 2位：ウ「教科指導法の学びの充実」 41人
- 3位：エ「学級経営法の学びの充実」 40人

最多は、「児童理解法の学びの充実」であった。学級経営、生徒指導が、学校教育で大きな比重を占めていることを示している回答であると考えられる。落ち着いた学級経営のためには、まず「児童理解」が重要であるという意識を示している。2位に「教科指導法の学び」3位に「学級経営法の学び」が選択されたが、これらの「児童理解」「教科指導」「学級経営」は、相互に関連し、学校教育の基盤である。欠けることなく学ぶ必要がある項目である。

自己の教職経験を振り返る中で、学生に対する期待の表れであると考えられる。最多は、「児童理解法の学びの充実」(57)であり、以下「教科指導法の学びの充実」(41)、「学級経営法の学びの充実」(40)、「協調性向上の学びの充実」(33)、「生徒指導法の学びの充実」(27)、「教科科目の学びの充実」(17)であった。何よりも、児童生徒を理解し、まず、学級経営、教科指導の力を得て欲しいという期待が読み取れる。同時に、職場はもとより、児童生徒、保護者との人間関係も重要な課題であることから、「協調性」もまた身に付けて欲しいという期待を感じ取れる。

教職を目指す多くの学生が、「児童理解」「生徒指導」「教科指導」「学級経営」という幅広い分野での学びに取り組んでいるが、改めて、教職がさまざまな面での指導能力を求められていることの表れだと言える。

2.2.7 質問 8 先生が、教師としての生活を歩まれてきた中で、教師としての指導力や力量形成に影響を生み出したと思われる事柄を、先生にとって意味の大きい順に1位から3位までをあげてください。

- () ア 教育実践上の経験（生徒指導、低学年指導、障がい児指導、特定の子どもとの出会い、など）
- () イ 学校への赴任
- () ウ 学校内での優れた先輩や指導者との出会い
- () エ 学校外での優れた教員・人物との出会い
- () オ 学校内での研究活動（校内研修、研究発表会、初任者研修、など）
- () カ 学校外での研究活動（各種教育研究団体、長期研修、各種講習会、など）
- () キ 市教育研究会、教育研究集会などの団体内での活動
- () ク 社会的運動（スポーツやボランティア活動など）
- () ケ 地域と学校への着目（地域の課題）
- () コ その他（)

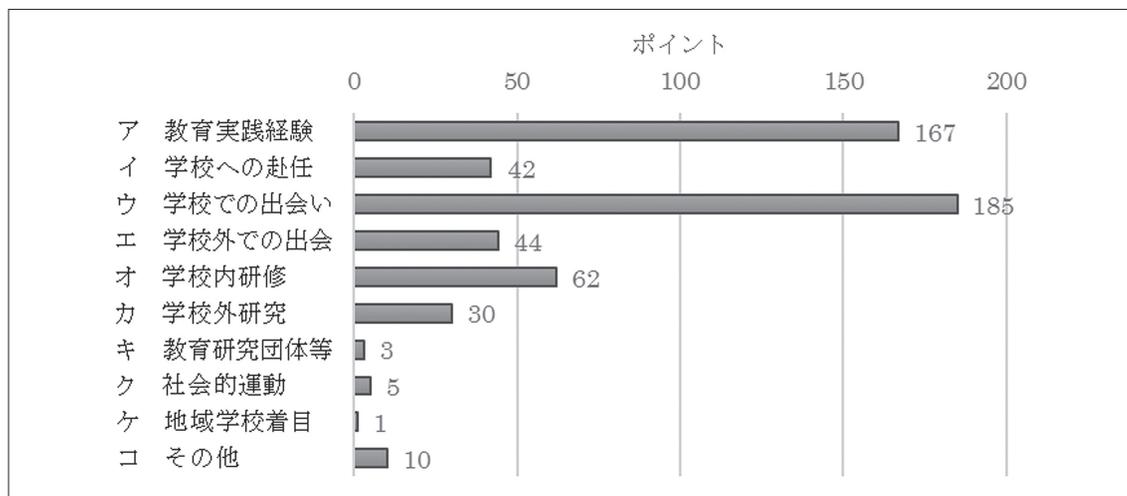


図 2.2.7 力量形成に影響したもの

- 1位：ウ「学校内での優れた先輩や指導者との出会い」 185ポイント
- 2位：ア「教育実践上の経験（生徒指導、低学年指導、障がい児指導、特定の子どもとの出会い、など）」 167ポイント
- 3位：オ「学校外での研究活動（各種教育研究団体、長期研修、各種講習会、など）」 62ポイント

3項目以内での選択であるが、圧倒的に「学校内での優れた先輩や指導者との出会い」が上位であった。特に、初任の学校での出会いが大きな影響を与えたものと考えられるが、改めて、教育が理論ではなく実践であるということ、意識調査からも伺えるといえる。多くの児童生徒を対象とし、一人一人の個性や理解力にも差がある中、校内（近く）の指導力（力量）ある先輩教師からの学びとアドバイスが、教師としての指導力（力量）形成に大きな影響を与えたことが読み取れる。

第2位に「教育実践上の経験（生徒指導、低学年指導、障がい児指導、特定の子どもとの出会い、など）が挙げられたが、様々な教育実践を通して教員としての指導力（力量）を形成してきたことを再確認できる。特に、困難な課題への対応を通して、力量を向上させることができた経験は、どの教員も持つものである。第3位は「校内研修、研究発表会、初任者研修など」の学校内での経験であったが、教育実践上の経験と不可分であり、教員としての実践力を高めていく基盤であると考えられる。第4位に、「学校外での研究活動（各種教育研究団体、長期研修、各種講習会、など）」であったが、学ぶ姿勢を持ち、学ぶ機会を生かすことの重要性を示していると思われる。

2.2.8 質問9 先生が、よい授業実践をするために日頃心がけていることを、1位から3位までの順をつけてあげてください。

順

- () ア 研究授業などをできるだけするようにしている。
- () イ 多くの授業を参観するようにしている。
- () ウ 教材の開発や研究を積極的にしている。
- () エ 記録を継続的にとり、子ども理解に努めている。
- () オ 前の授業の振り返りを生かして授業改善している。
- () カ 実践記録を書き、授業を振り返っている。
- () キ 研究会や学会に積極的に参加している。
- () ク 教育関係の本や雑誌を常に読むようにしている。
- () ケ 常に自分で課題を見つけ、授業の改善に向けた努力をしている。
- () コ その他 ()

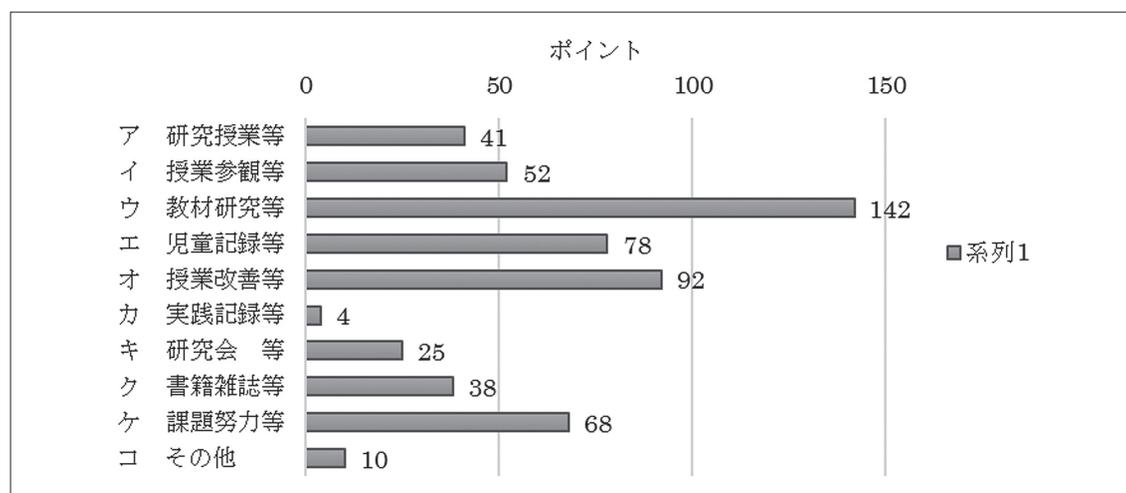


図 2.2.9 心掛けているもの

- 1位：ウ「教材の開発や研究を積極的にしている」 142 ポイント
- 2位：オ「前の授業の振り返りを生かして授業改善している」 92 ポイント

3位：エ「記録を継続的にとり、子ども理解に努めている」 78ポイント

力量のある教員が、どのように指導力を向上させてきたかの分析に繋がるものである。教員が、力量形成のために、どのような研修や学習、取り組みを重視しているかを見たものである。

最多は、「教材の開発や研究を積極的にしている」(142P)であり、極めて高い比率を示している。何よりも、授業で児童を引きつけ、理解させるか、教員としての使命を自覚しての姿勢である。次ぎに「実践記録を書き、授業を振り返っている」(92P)である。授業改善、指導法改善のために重要なことであり、力量ある教師は、必ず習慣化している方法と思われる。3位は「記録を継続的にとり、子ども理解に努めている」(78P)である。授業の充実のためには、児童一人一人の理解度や習熟度に目を向け、その後の授業改善に生かそうとするものである。力量ある教師ほど、この視点が強いと思われる。以下「常に自分で課題を見つけ、授業の改善に向けた努力をしている」(68P)、「多くの授業を参観するようにしている」(52P)、「研究授業などを出来るだけするようにしている」(41P)、「教育関係の本や雑誌を常に読むようにしている」(38P)、「研究会や学会に積極的に参加している」(25P)の順となっている。

2.2.9 質問 10 先生は、教員としての力量としてどのようなものが重要だとお考えですか。1位から3位までの順をつけて、あげてください。

順

- () ア わかりやすく授業を展開していく力(教材のくみため、話し方、板書)
- () イ 子どもの学習状況、悩み、要求、生活状況などを適切に把握する力
- () ウ 子どもに積極的に関わっていく熱意や態度
- () エ 子どもの資質、適性を見抜く力
- () オ 子どもの思考や感情を触発し発展させる教師の表現力
- () カ 子どもの集団を把握し、まとめていく力
- () キ 子どもの問題や学校の問題を広い視野から見ることのできる度量の広さ
- () ク 必要に応じて、子どもに対して毅然たる態度を取ることができる強さ
- () ケ 芸術や文学に対する豊かな感性や理解
- () コ 必要に応じて、子どもに対して毅然たる態度をとることができる強さ
- () サ 同僚と協力しながら教師集団の質を高めていく
- () シ 教科書の中の教材を様々な角度からとりあげて指導する力
- () ス 教育に関する諸問題を自分なりに筋道を立てて論理的に考えることのできる力
- () セ 教師自身の体育、音楽、図工などの実技能力
- () ソ 学校全体の中で自己を位置づけ、その立場から考える力

() タ 学校の課題とは直接の関連はないが、自分にとって関心のある学問や研究を
深めていくこと

() チ その他 ()

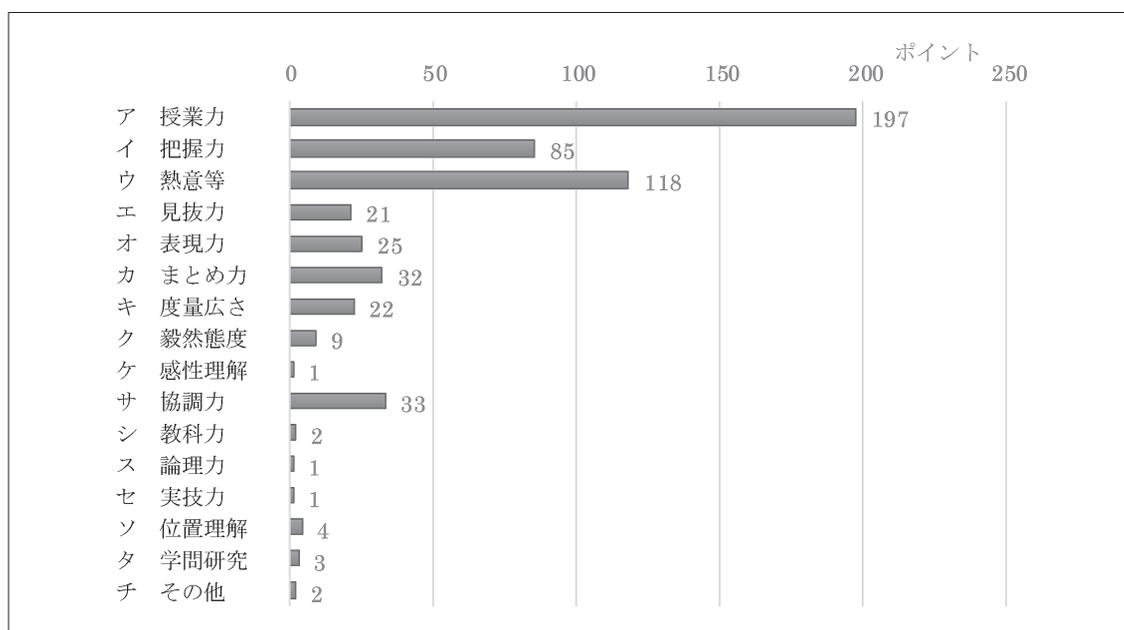


図 2.2.10 重要だと考える力量

1位：ア「わかりやすく授業を展開していく力」 197 ポイント

2位：ウ「子どもに積極的に関わっていく熱意や態度」 118 ポイント

3位：イ「子どもの学習状況、悩み、要求、生活状況などを適切に把握する力」

自己の経験を踏まえた上で、教員の力量として、どのような力を重視しているかを問うたものである。教員養成学部にとっては、重要な視点になると考える。

最多は、「分かりやすい授業を展開していく力」で抜きん出ている。教員の最も重要な職務である授業の指導力であり当然のことであろう。この指導力（力量）をどう身に付けていくか。その基盤となるものを、学部教育でどのように身につけさせていくのかである。

第2位の「子どもに積極的に関わっていく熱意や態度」は、教師としての意欲と姿勢が重要であることを示唆している。教員の多忙化が指摘される中、日々児童生徒に向き合う教師の姿勢を支えるのは、まさに「教育への熱意」とやりがいであると思われる。第3位の児童の「把握力」は、児童理解力であり、児童生徒一人一人に応じた指導に取り組もうとする教員の姿勢が読み取れる。

2.2.10 質問 11 教員を目指す大学生に、願うことがあれば、ご記入ください。

- ・セミナー生、ボランティアとして、学校現場の経験をすること（教育実習以外）。
- ・ボランティア活動、企業体験など、社会体験がもっと必要だと思う。
- ・教育実習、助手等の体験。

- ・子どもに対する情熱。
- ・アルバイトやボランティア等で、いろいろな人がいることを知って欲しい。
- ・社会人としての基礎を身に付けて欲しい。教員自身も一般社会を経験した方がよい。
- ・人は、一人一人違う存在であることを理解して、個人に生かした指導のできる人になって欲しい。
- ・アルバイトや部活、旅行など、教育に直接は関係なさそうな経験。
- ・幅広い知識と経験。
- ・知識だけでなく、様々なことを体験し、相手の思いや考えの分かる人に。
- ・人間性を磨く。
- ・社会性を身に付けて欲しい。
- ・先輩の背中を見て、動ける人に。
- ・様々な人とのつながり。
- ・社会人としてのマナーを身に付けること。
- ・学んだ事を何か形にして生かせる工夫や努力できる人になって欲しい。

3. 結果の考察と課題

3.1 結果の考察

○ 現職教員の意識調査の結果、教師の力量形成に影響を与えたのは、「学校内での優れた先輩や指導者との出会い」であり「教育実践上の経験」「学校内での研究活動」であった。このことは、教員として採用されてからの経験の中で、教師としての指導力（力量）を高めてきたということである。児童生徒との日々の関わりの中で、教師としての指導力（力量）を向上させてきたという自覚が伺える。このことは、学部教育は、あくまでも教員としての指導力（力量）の基盤育成にあると言える。授業力の基盤となる力、児童理解力の基盤となる力の育成が、学部教育に期待されているのである。

また、別の視点から見れば、初任校として配置された学校に、指導力（力量）のある教員が配置されていることも重要である。全ての学校に、「優れた先輩」「優れた指導者」として、新任教員、若い教員にアドバイスし、支援できる教員がいることが重要であると考ええる。

○ 現職教員のほとんどが、教職を目指したきっかけを、「教師との出会い」（63.4%）としている。このことは、理想の教師像を持ちながら、教員としての指導力（力量）を向上させていくことに影響を与えたと推測できる。教員養成学部生の多くが、それぞれ理想とする教師像を持って入学してきていると思われる。その「影響を与えた教員」像を、大事にさせていくことが、意欲とやりがいを持って、教員になり、指導力（力量）を付けてい

くことになると考える。

○ 現職教員が、「教師をめざす学生に期待すること」の結果は、大きく、3点に分類できる。1点目は、「学校現場の体験」である。セミナー生、学校ボランティアなど、学校研修生、教育実習など、さまざまな機会を持って、学校現場を体感し学んで欲しい、との願いを感じる。後述するように、教員養成学部生の今後の養成のあり方として、「学校インターンシップ制」等の学校現場体験が提言されてきている。このことに通じる現職教員の願いと考えられよう。本学では、既にこの点でのカリキュラム編成ができ、具体的に実施され、高い評価と効果を挙げてきている。特筆されることである。

2点目は、「幅広い学習や体験」を願うものである。教育への直接の関わりがないことについても、積極的に体験し「幅広い視野」と「豊かな人間性」を身に付けて欲しい。そのことは、必ずや教員としての指導力（力量）の基盤になるとの思いであろう。重要なのは、直接教育とは結びつかなくとも、教師としての基盤形成に必ず効果があるとされることである。言葉を変えれば、「豊かな人間性」の教員につながる経験や学びを、学部時代にしておいて欲しいとの願いと考える。

3点目は、「社会人としての規律」を学んで欲しいという願いであると考え。以前のよう学校は「封鎖的」であったり、「学級王国」と言われるような状況はなくなっている。学校と地域との連携が推進され、教職員もまた、協力し合い高め合いながら、教育活動が推進されている。それだけに、地域や保護者との関わり方も変化し、教員としてと同時に、社会人としてのマナーや対応が求められていることの反映であると考え。学部教育の重要な課題であると考え。本学では、この点を意識して、学生指導が行われていると評価できる。

3.2 今後の研究課題

本研究では、年齢や経験年数を考慮せずの集計をもとに考察した。しかしながら、年齢や経験年数、そして、男女の差異も考慮した分析が必要と考え、本研究その2で、その分析を行っていく。経験年数、男女を分類しての分析を通すことが、より深い考察になると考える。

また、力量ある現職教員の個別の分析も必要であると考え。多くの先行研究に学びながら、近隣市町の力量ある現職教員がいかに教員としての指導力（力量）を向上させてきたか、を分析することもまた、学部教育に反映させることができると考える。

最後に、中央教育審議会教員養成部会は、平成27年10月「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について」の答申案の中で、教員養成改革に関し「教科に関する科目」「教職に関する科目」の区分を撤廃して統合するなど「教職課程の科目を大きくくりすること」（答申案 P35 (3) 教員養成に関する改革の具体的な方向①教職課程における

科目の大きくくり化及び教科と教職の統合)を示している。アクティブラーニングの視点からの授業改善、ICTを活用した指導法、道徳教育や外国語活動の充実など、現下の教育課題に対応することも示している(同)。注目すべきは、学校インターンシップの導入にも提言していることである。

現職教員の意識調査を対象とした本研究に於いても、「学生の時から学校現場で児童理解や生徒指導について触れることが重要」との指摘が多かった。本学部では、学部開設以来、学校現場での学びを体験することの重要性を位置づけ、「学校ふれあい体験」「学校教育研修生制度」そして、「3年次での教育実習」を制度化してきた。まさに、「学校インターンシップ」を先行実施してきたとも言えるのである。現在の本学部の教員養成制度を継続することは、教員養成の課題解決に示唆を与えていると言っても過言ではないと考える。

今後とも、本学部が、「教育力」「実践力」「人間力」を備えた教員養成を目指す学部としての研究と実践に寄与していきたい。

参考文献

- 国立教育政策研究所、『教員の質の向上に関する調査研究報告書』, 2011
 埼玉大学教育学部、『「力量ある質の高い教員」を目指す養成・研修の在り方に関する調査研究報告書』, 2012
 安井克彦,『教師のライフコースと力量形成に関する研究(その1) —西尾市小中学校教員4役悉皆調査より—』, 名古屋学芸大学研究紀要第8号 2012
 和井田節子, 石原陽子他,『若い教師の育成に関する総合的研究(その1)』, 日本教師教育学会第24回研究大会発表資料, 2014
 中央教育審議会教員養成部会,『これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について —学び合い、高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて— 答申案』, 2015

集計表

【質問1】先生が、最終的に教師になろうと決められた**時期**は、いつ頃でしたか。○をつけてください。

	選 択 肢	A校	B校	C校	合 計
ア	小学校時代	4	2	5	11
イ	中学校時代	3	6	6	15
ウ	高校時代	16	4	10	28
エ	大学への入学直後	6	3	1	10
オ	大学時代（教育実習の前から）	1	2	2	5
カ	大学時代（教育実習終了後）	4	2	3	9
キ	大学時代（卒業の時）	0	4	1	5
ク	教職に就いてから	1	2	3	6
ケ	その他	0	1	2	3
	未回答	0	0	1	1

【質問2】教職を目指した**きっかけ**を、次のうちから2つ以内選んで、○をつけてください。

	選 択 肢	A校	B校	C校	合 計
ア	教師との出会い（小、中、高）	20	20	19	59
イ	周囲の人（特に ）の勧め	3	4	3	10
ウ	大学や学部の選択	6	6	6	18
エ	教育系大学等への入学へのあこがれ	4	1	2	7
オ	職の安定性、将来の経済的安定性	7	8	6	21
カ	家業の継続を避けるため	0	0	1	1
キ	家業を継ぐため	0	0	0	0
ク	その他	9	3	5	17
	未回答	0	0	0	0

【質問3】先生が、教職を目指した**理由**を、次のうちから2つ以内選んで、○をつけてください。

	選 択 肢	A校	B校	C校	合 計
ア	仕事のやりがい	23	12	17	52
イ	教えることが好き	12	9	11	32
ウ	教師へのあこがれ	13	8	12	33
エ	経済的な安定	5	7	4	16
オ	教師以外の仕事が考えられなかった	2	4	5	11
カ	家業の継続を避けるため	0	0	0	0
キ	家業を継ぐため	0	0	0	0
ク	その他	9	4	4	17
	未回答	0	0	0	0

【質問4】先生が経験された、小学・中学・高校・大学時代の経験で、教員としての自分に**影響**を与えていると思われる出来事をそれぞれ、1つ選び○をつけてください。

(1) 小学校時代

	選 択 肢	A校	B校	C校	合 計
ア	授業	5	1	4	10
イ	教師の人柄	17	14	12	43
ウ	学校での経験	9	1	9	19
エ	学校外での経験	1	2	2	5
オ	友人関係	3	3	2	8
カ	その他	0	1	3	4
キ	未回答	0	0	0	0

(2) 中学校時代

	選 択 肢	A校	B校	C校	合 計
ア	授業	5	2	2	9
イ	教師の人柄	9	10	10	29
ウ	学校での経験	15	10	10	35
エ	学校外での経験	0	0	0	0
オ	友人関係	3	4	7	14
カ	その他	0	1	1	2
キ	未回答	0	0	0	0

(3) 高校時代

	選 択 肢	A校	B校	C校	合 計
ア	授業	7	4	3	14
イ	教師の人柄	4	7	9	20
ウ	学校での経験	5	5	8	18
エ	学校外での経験	2	1	4	7
オ	友人関係	12	5	6	23
カ	その他	3	1	0	4
キ	未回答	0	0	0	0

(4) 大学時代

	選 択 肢	A校	B校	C校	合 計
ア	授業	2	7	4	13
イ	教師の人柄	3	6	1	10
ウ	学校での経験	10	4	15	29
エ	学校外での経験	7	3	4	14
オ	友人関係	9	5	10	24
カ	その他	2	0	0	2
キ	未回答	0	0	0	0

【質問5】 教員としての自分に影響を与えていると思われる**大学での教職課程**（教職・教科の科目、教育実習など）の出来事を、3つ以内で選び○をつけてください。

	選 択 肢	A校	B校	C校	合 計
ア	教職科目の内容	9	4	8	21
イ	教科科目の内容	12	5	4	21
ウ	教職科目担当講師	3	5	5	13
エ	教科科目担当講師	2	2	1	5
オ	ゼミ・研究室での研究内容（卒論テーマ等）	9	3	6	18
カ	ゼミ、研究室の担当講師	11	6	9	26
キ	教育実習先での教師との出会い	18	14	13	45
ク	教育実習先での児童生徒との出会い	19	15	17	51
ケ	教育実習先での実習仲間との出会い	0	0	0	0
コ	教育実習先での授業実践	8	4	11	23
サ	その他	2	1	2	5
	未回答	0	0	0	0

【質問6】 教員を目指す大学生に、期待する学びや経験を、3つ以内で選び○をつけてください。

選 択 肢		A校	B校	C校	合 計
ア	教職科目の学びの充実	5	2	4	11
イ	教科科目の学びの充実	4	8	5	17
ウ	教科指導法の学びの充実	20	11	10	41
エ	学級経営法の学びの充実	16	8	16	40
オ	児童理解法の学びの充実	21	16	20	57
カ	生徒指導法の学びの充実	12	8	7	27
キ	協調性向上の学びの充実	10	10	13	33
ク	情報処理法の学びの充実	4	2	2	8
ケ	運動能力の学びの充実	0	1	0	1
コ	その他	6	5	3	14
	未回答	0	0	0	0

【質問7】 教員を目指す大学生に、願うことがあれば、ご記入ください。※ 本論では掲載無し。

- ・セミナー生、ボランティアとして、学校現場の経験をする事（教育実習以外）。
- ・ボランティア活動、企業体験など、社会体験がもっと必要だと思う。
- ・教育実習、助手等の体験。・子どもに対する情熱。
- ・アルバイトやボランティア等で、いろいろな人がいることを知って欲しい。
- ・社会人としての基礎を身に付けて欲しい。教員自身も一般社会を経験した方がよい。
- ・人は、一人一人違う存在であることを理解して、個人に生かした指導のできる人になって欲しい。
- ・アルバイトや部活、旅行など、教育に直接は関係なさそうな経験。
- ・幅広い知識と経験。
- ・知識だけでなく、様々なことを体験し、相手の思いや考えの分かる人に。
- ・人間性を磨く。・社会性を身に付けて欲しい。
- ・先輩の背中を見て、動ける人に。
- ・様々な人とのつながり。
- ・社会人としてのマナーを身に付けること。
- ・学んだ事を何か形にして生かせる工夫や努力できる人になって欲しい。
- ・その他

【質問8】 先生が、教師としての生活を歩まれてきた中で、教師としての指導力や力量形成に影響を生み出したと思われる事柄を、先生にとって意味の大きい順に1位から3位までをあげてください。

	選 択 肢 (選択順位)	A校			B校			C校			合 計		
		①	②	③	①	②	③	①	②	③	①	②	③
ア	教育実践上の経験	14	4	7	12	6	4	15	5	3	41	15	14
イ	学校への赴任	1	0	4	3	2	2	3	3	4	7	5	11
ウ	学校内での優れた先輩や指導者との出会い	18	10	2	8	12	3	9	15	1	35	37	6
エ	学校外での優れた教員・人物との出会い	0	5	7	1	5	2	1	3	3	2	13	12
オ	学校内での研究活動	2	11	7	1	1	7	0	3	9	3	15	23
カ	学校外での研究活動	1	3	6	1	0	2	2	0	4	4	3	12
キ	団体内での活動	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0	3
ク	社会的運動	0	0	0	0	0	2	0	1	1	0	1	3
ケ	地域と学校への着目	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
コ	その他	0	1	1	0	0	1	1	1	1	1	2	3
	未回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

【質問9】先生が、よい授業実践をするために日頃心がけていることを、1位から3位までの順をつけて、あげてください。

	選 択 肢 (選択順位)	A校			B校			C校			合 計		
		①	②	③	①	②	③	①	②	③	①	②	③
ア	研究授業などをできるだけする	4	1	3	1	1	2	3	2	4	8	4	9
イ	多くの授業を参観するように	3	7	4	1	3	3	0	5	3	4	15	10
ウ	教材の開発や研究を積極的に	11	7	6	12	2	4	11	3	6	34	12	16
エ	子ども理解に努めている	4	4	1	6	1	3	9	2	3	19	7	7
オ	授業改善している	4	8	4	3	11	2	2	9	3	9	28	9
カ	授業を振り返っている	0	0	2	0	0	0	0	1	0	0	1	2
キ	研究会や学会に積極的に参加	0	5	2	0	1	4	1	1	2	1	7	8
ク	教育関係の本や雑誌を常に読む	2	2	6	0	3	6	0	3	2	2	9	14
ケ	授業の改善に向けた努力を	5	2	5	2	4	2	5	3	7	12	9	14
コ	その他	1	1	1	1	0	0	0	0	1	2	1	2
	未回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

【質問10】先生は、教員としての力量としてどのようなものが**重要**だとお考えですか。1位から3位までの順をつけて、あげてください。

	選 択 肢 (選択順位)	A校			B校			C校			合 計		
		①	②	③	①	②	③	①	②	③	①	②	③
ア	わかりやすく授業を展開していく力	20	9	5	13	6	6	14	6	3	47	21	14
イ	状況などを適切に把握する力	1	12	4	1	7	2	5	8	4	7	27	10
ウ	子どもに積極的に関わっていく熱意	11	7	2	7	4	4	7	6	3	25	17	9
エ	子どもの資質、適性を見抜く力	0	0	1	2	0	1	3	2	0	5	2	2
オ	発展させる教師の表現力	0	1	3	1	3	2	1	2	3	2	6	7
カ	集団を把握し、まとめていく力	0	4	2	2	3	0	1	2	3	3	9	5
キ	広い視野から見ることのできる度量	1	0	4	0	0	3	0	3	6	1	3	13
ク	毅然たる態度を取ることができる強さ	0	0	4	0	2	1	0	0	0	0	2	5
ケ	芸術や文学に対する豊かな感性や理解	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
サ	教師集団の質を高めていく力	1	1	9	1	1	4	0	2	6	2	4	19
シ	様々な角度からとりあげ指導する力	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2
ス	論理的に考えることのできる力	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
セ	体育、音楽、図工などの実技能力	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
ソ	自己を位置づけその立場から考える力	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1
タ	学問や研究を深めていくこと	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0
チ	その他	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2
	未回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

【教育に関するアンケートご協力をお願い】

昭和50年代採用教職員の定年退職期を迎え、小中学校では、新採用教員が増加し、「どのように経験豊かな教師の指導力を継承していくか」が課題となっています。その一考察の資料といたく、以下の問いにお答えくださるようお願いいたします。ご多用な中、恐縮です。なお、無記名での調査とし、本研究以外での使用は、行いません。

【研究の目的】

- ① 教師を目指す大学生に期待する点を集計し、学部・学科教育充実への参考とする。
- ② 教師としての資質・指導力向上が図られた体験や研修機会を把握し、今後の「研修」の参考とする。

【基礎項目】 (平成26年3月現在で計算、記入ください。) 本採用年度 (昭・平 年度)

- ① ご年齢 () 歳 性別 (男、女)
- ② 卒業大学等 ア 4年制大学、 イ 短期大学、 ウ 大学院、 エ その他 ()
- ③ 教職等経験年数 () 年 (内 本採用 年、 臨時的任用 年)
- ④ 受講された研修等 ア 初任者研修 イ 年次研修 ウ 中期・長期研修 エ カウンセリング研修
オ その他 ()

【質問1】 先生が、最終的に教師になろうと決められた時期は、いつ頃でしたか。○をつけてください。

- ア 小学校時代 イ 中学校時代 ウ 高校時代 エ 大学への入学直後
オ 大学時代 (教育実習の前から) カ 大学時代 (教育実習終了後)
キ 大学時代 (卒業の時) ク 教職に就いてから

【質問2】 教職を目指したきっかけを、次のうちから2つ以内選んで、○をつけてください。

- ア 教師との出会い (小、中、高) イ 周囲の人 (特に) の勧め
ウ 大学や学部の選択 エ 教育系大学等への入学へのあこがれ
オ 職の安定性、将来の経済的安定性 カ 家業の継続を避けるため
キ 家業を継ぐため ク その他 ()

【質問3】 先生が、教職を目指した理由を、次のうちから2つ以内選んで、○をつけてください。

- ア 仕事のやりがい イ 教えることが好き
ウ 教師へのあこがれ エ 経済的な安定
オ 教師以外の仕事が考えられなかった カ 家業の継続を避けるため
キ 家業を継ぐため ク その他 ()

【質問4】 先生が経験された、小学・中学・高校・大学時代の経験で、教員としての自分に影響を与えていると思われる出来事をそれぞれ、1つ選び○をつけてください。

- | | | | | |
|-------|------------------|-----------------------|----------|-----------|
| 小学校時代 | (ア 授業
オ 友人関係) | (イ 教師の人柄
カ その他 () | ウ 学校での経験 | エ 学校外での経験 |
| 中学校時代 | (ア 授業
オ 友人関係) | (イ 教師の人柄
カ その他 () | ウ 学校での経験 | エ 学校外での経験 |
| 高校時代 | (ア 授業
オ 友人関係) | (イ 教師の人柄
カ その他 () | ウ 学校での経験 | エ 学校外での経験 |
| 大学時代 | (ア 授業
オ 友人関係) | (イ 教師の人柄
カ その他 () | ウ 大学での経験 | エ 大学外での経験 |

【質問5】 教員としての自分に影響を与えていると思われる大学での教職課程 (教職・教科の科目、教育実習など) の出来事を、3つ以内で選び○をつけてください。

- ア 教職科目の内容 イ 教科科目の内容 ウ 教職科目担当講師 エ 教科科目担当講師
オ ゼミ・研究室での研究内容 (卒論テーマ等) カ ゼミ、研究室の担当講師
キ 教育実習先での教師との出会い ク 教育実習先での児童生徒との出会い
ケ 教育実習先での実習仲間との出会い コ 教育実習先での授業実践
サ その他 ()

【質問6】 教員を目指す大学生に、期待する学びや経験を、3つ以内で選び○をつけてください。

- ア 教職科目の学びの充実 イ 教科科目の学びの充実 ウ 教科指導法の学びの充実
エ 学級経営法の学びの充実 オ 児童理解法の学びの充実 カ 生徒指導法の学びの充実
キ 協調性向上の学びの充実 ク 情報処理法の学びの充実 ケ 運動能力の学びの充実
コ その他 ()

【質問7】 教員を目指す大学生に、願うことがあれば、ご記入ください。

()

【質問8】 先生が、教師としての生活を歩まれてきた中で、教師としての指導力や力量形成に影響を生み出したと思われる事柄を、先生にとって意味の大きい順に1位から3位までをあげてください。

順

- () ア 教育実践上の経験（生徒指導、低学年指導、障がい児指導、特定の子どもとの出会い、など）
- () イ 学校への赴任
- () ウ 学校内での優れた先輩や指導者との出会い
- () エ 学校外での優れた教員・人物との出会い
- () オ 学校内での研究活動（校内研修、研究発表会、初任者研修、など）
- () カ 学校外での研究活動（各種教育研究団体、長期研修、各種講習会、など）
- () キ 市教育研究会、教育研究集会などの団体内での活動
- () ク 社会的運動（スポーツやボランティア活動など）
- () ケ 地域と学校への着目（地域の課題）
- () コ その他 ()

【質問9】 先生が、よい授業実践をするために日頃心がけていることを、1位から3位までの順をつけて、あげてください。

順

- () ア 研究授業などをできるだけするようにしている。
- () イ 多くの授業を参観するようにしている。
- () ウ 教材の開発や研究を積極的にしている。
- () エ 記録を継続的にとり、子ども理解に努めている。
- () オ 前の授業の振り返りを生かして授業改善している。
- () カ 実践記録を書き、授業を振り返っている。
- () キ 研究会や学会に積極的に参加している。
- () ク 教育関係の本や雑誌を常に見るようにしている。
- () ケ 常に自分で課題を見つけ、授業の改善に向けた努力をしている。
- () コ その他 ()

【質問10】 先生は、教員としての力量としてどのようなものが重要だとお考えですか。1位から3位までの順をつけて、あげてください。

順

- () ア わかりやすく授業を展開していく力（教材のくみため、話し方、板書）
- () イ 子どもの学習状況、悩み、要求、生活状況などを適切に把握する力
- () ウ 子どもに積極的に関わっていく熱意や態度
- () エ 子どもの資質、適性を見抜く力
- () オ 子どもの思考や感情を触発し発展させる教師の表現力
- () カ 子どもの集団を把握し、まとめていく力
- () キ 子どもの問題や学校の問題を広い視野から見ることのできる度量の広さ
- () ク 必要に応じて、子どもに対して毅然たる態度を取ることができる強さ
- () ケ 芸術や文学に対する豊かな感性や理解
- () サ 同僚と協力しながら教師集団の質を高めていく力
- () シ 教科書の中の教材を様々な角度からとりあげて指導する力
- () ス 教育に関する諸問題を自分なりに筋道を立てて論理的に考えることのできる力
- () セ 教師自身の体育、音楽、図工などの実技能力
- () ソ 学校全体の中で自己を位置づけ、その立場から考える力
- () タ 学校の課題とは直接の関連はないが、自分にとって関心のある学問や研究を深めていくこと
- () チ その他 ()

【質問11】 先生が、今後、新採用教員等の経験の若い教員へ、指導力等を伝えていく上で、参考となる方策等があれば、お聞かせください。

()



◇ご協力、本当にありがとうございました。回答が空欄でも、結構ですので、是非、ご提出ください。